

入選

一期一会の宝

鹿児島県 鹿児島第一中学校
三年 南 結衣

「ブードゥー人形」が、いつも私を見守ってくれています。

大切な友だちとの出会いは、11年前です。観光施設を営んでいる我が家は年中無休で、親といっしょに遊んでもらえる時間がありませんでした。夏のあの日も、一人ぼっちでお絵描きをしていると、突然耳元で声がしたのです。

「あたし、神戸から来た七海。いっしょに遊ばへん？」

聞き慣れないイントネーションで話しかけられて、びっくりしました。ハイビスカスを髪に飾ったり、かき氷を作ったりして、二人の距離はぐんと縮まりました。中でも、外国で生活して帰国したばかりの彼女の話には、興味深いものがありました。

いっしょにいて退屈だと感じた瞬間は、一度もなかったことを覚えています。楽しい時間は、あっというまでした。

「また、秋になったら奄美に来るから、すぐ会えるやん。」

兄弟姉妹のいない私は、明るくて優しいお姉さんができてとても嬉しくなりました。次の日から、一人で秋が来るのをひたすら待ち焦がれていました。

2010年10月、私の住んでいた奄美大島では、1時間に約90ミリの大雨が降りました。死者3名を含む人的被害、土砂崩れ、道路崩壊など、多大な被害を出した大災害です。停電が続き、飲み水や食べ物も少なく、不安な夜でした。

そんな中、奄美の状況を知った全国各地の方々が、救いの手を差し伸べてくださいました。たくさんの支援物資が届き、スコップを持って船でかけつけてくださった方の姿もありました。その方々と島民が一丸となって、災害復旧に尽力している光景は、幼かった私の目に焼きついています。

少し落ち着いた頃、七海ちゃんから手紙が届きました。私たち家族のことを案じて、復旧を願う内容とともに同封されていたのが、タイのお守り「ブードゥー人形」でした。辛いことを身代わりに引き受けてくれたり、家の中に入ってくる悪い気を取り払ってくれたりするそうです。

オレンジ色で少し不格好な顔を見ていると、なんだか気分が軽くなります。大切な友人からの贈り物は、今でも、そしてこれからも宝物です。

私は中学生になり、彼女は高校生になりました。阪神淡路大震災の1月と、奄美豪雨災害の10月は、お互いに連絡を取り合うようにしています。そのとき、なくなられた方や、被害に遭われた方に思いを寄せて手を合わせるのです。

将来抱えるであろう不安や苦しみ、寂しさ。それらを乗り越えるために、やはり私にはこの「ブードゥー人形」が必要です。どんなときも、気にかけて寄り添ってくれる人がいることを思い出させてくれる気がするのです。私も、誰かの支えとなれる存在になっていきたいと、改めて強く思いました。たった一度の出会いで、そう思わせるきっかけをくれた彼女には、感謝を伝えたくてなりません。

もう一度、七海ちゃんに会いたいな。